

# Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 鉱工業生産指数(2006年6月)

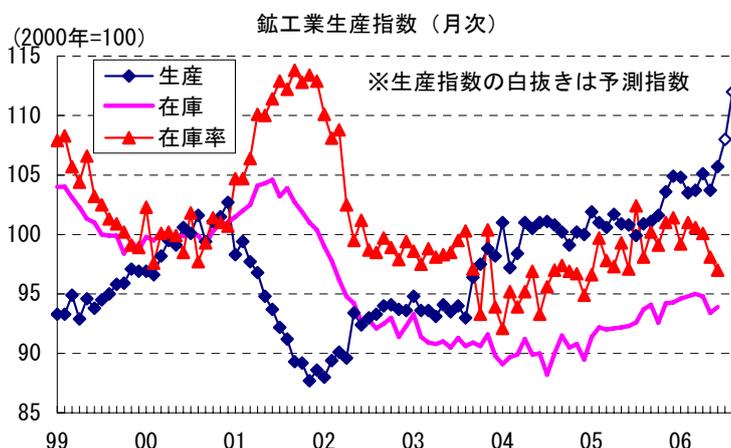
発表日2006年7月31日(月)

～7-9月期はしっかりだが、IT動向が懸念材料～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 長谷山 則昭

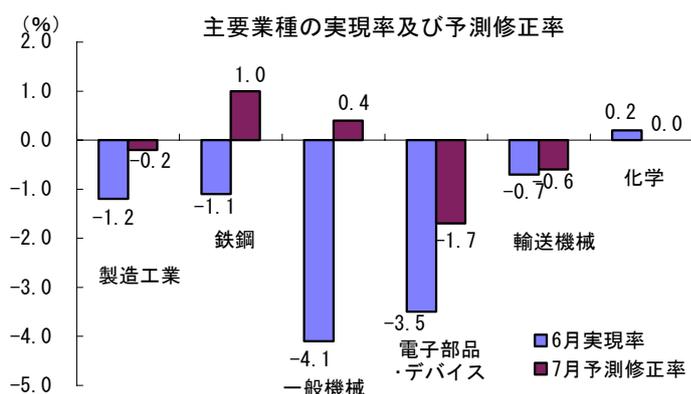
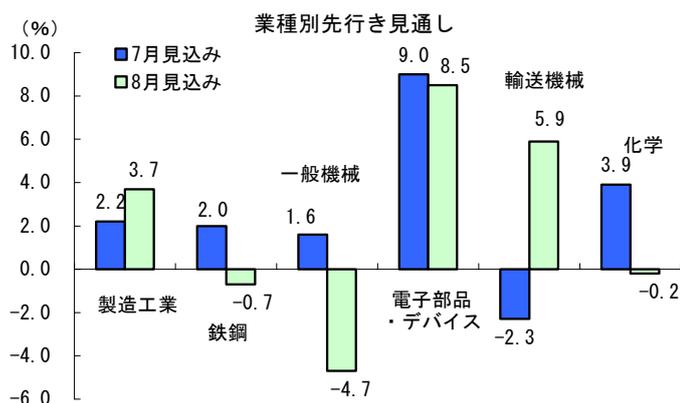
TEL : 03-5221-4525



	生産 前月比%	出荷 前月比%	在庫 前月比%	在庫率 前月比%
04年6月	▲ 0.1	1.3	0.1	▲ 2.2
7月	▲ 0.9	▲ 0.4	0.3	5.5
8月	1.0	1.6	1.2	▲ 4.2
9月	0.2	▲ 0.6	0.4	2.1
10月	0.5	1.2	▲ 1.6	▲ 1.1
11月	2.0	1.1	1.7	1.9
12月	1.3	0.9	0.1	0.4
06年1月	▲ 0.1	0.2	0.3	▲ 2.2
2月	▲ 1.2	▲ 2.0	0.2	1.8
3月	0.2	0.9	0.2	▲ 0.4
4月	1.4	2.6	▲ 0.2	▲ 0.5
5月	▲ 1.3	▲ 1.4	▲ 1.5	▲ 2.0
6月	1.9	0.7	0.5	▲ 1.1
6月	2.2	←予測指数		
7月	3.7	(出所: 鉱工業指数、経産省)		

## ○6月の鉱工業生産は前月比+1.9%と2ヵ月ぶりに上昇

6月の鉱工業生産指数は前月比+1.9%と、市場コンセンサス(前月比+1.2%、レンジ同+0.3~+1.8%)を上回って上昇した。4-6月期平均でみれば、前期比+0.8%と1-3月期の同+0.6%を小幅上回っており、生産の増加基調が持続していることが改めて確認できる内容といえる。加えて、7、8月の予測指数が比較的大きな上昇となっていることはポジティブな材料だ。7月は前月比+2.2%、8月は同+3.7%が見込まれており、9月が前月比横ばいと仮定すると7-9月期は前期比+5.6%となる。後述の通りIT分野で高めの計画となっていることや実現率がマイナス傾向にあることを考慮しても、仕上がりはしっかりしたプラスとなる可能性が高い。7-9月期も生産は堅調に推移すると考えられる。



## ○資本財出荷が大幅増加、4-6月期も設備投資は堅調

業種別にみると、生産の上昇に寄与したのは輸送機械工業(前月比+5.9%)、一般機械工業(前月比+3.6%)等である。普通自動車等の輸出が好調だった輸送機械が2ヵ月ぶりに上昇に転じ、一般機械は水管ボイラやフラットパネル・ディスプレイ製造装置等が上昇に寄与した。設備投資関連財を多く含む一般機械

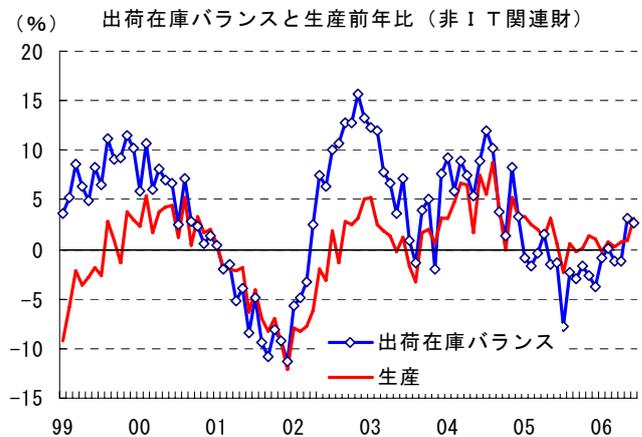
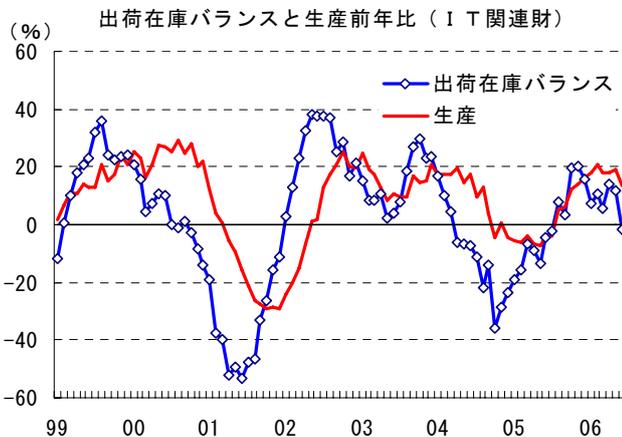
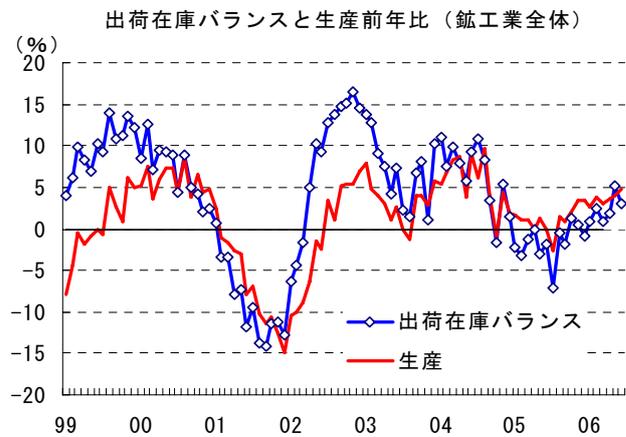
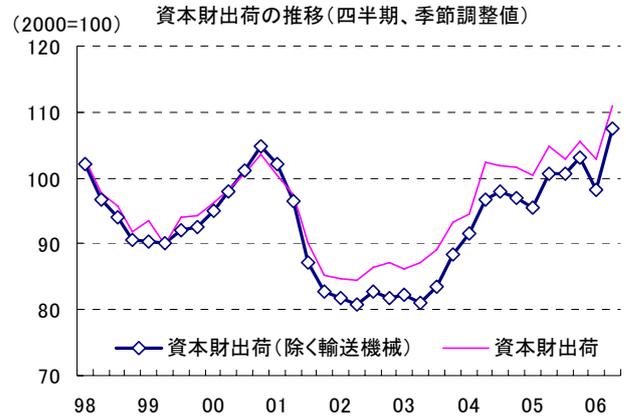
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

は3ヶ月連続で増加しており、好調が持続している。このため、設備投資の一致指標である資本財出荷は4-6月期に前期比+7.8%と大幅増加となった。供給側統計から判断すれば、4-6月期も設備投資は堅調に推移した可能性が高い。

なお、出荷指数は前月比+0.7%、在庫指数は前月比+0.5%と上昇した。在庫率指数は前月比▲1.1%低下となった。

### ○IT分野での調整懸念が高まる

6月はワールドカップ商戦後の動向という観点からIT関連財の動きが注目されたが、そのIT関連財の出荷・在庫バランスは6月に大きく悪化した。また、7月は電気機械工業で大幅な減産計画になっていることや、情報通信機械工業の計画に比べて電子部品・デバイス工業の計画が高めとなっていることもやや気になる。需要に比べて供給過剰になることで生じるIT分野での調整懸念は前月に比べて大きく高まったといえる。東アジアにおいてもIT関連財の出荷・在庫バランスがピークアウトしていることも踏まえると、今後も同分野は注視していく必要があるだろう。



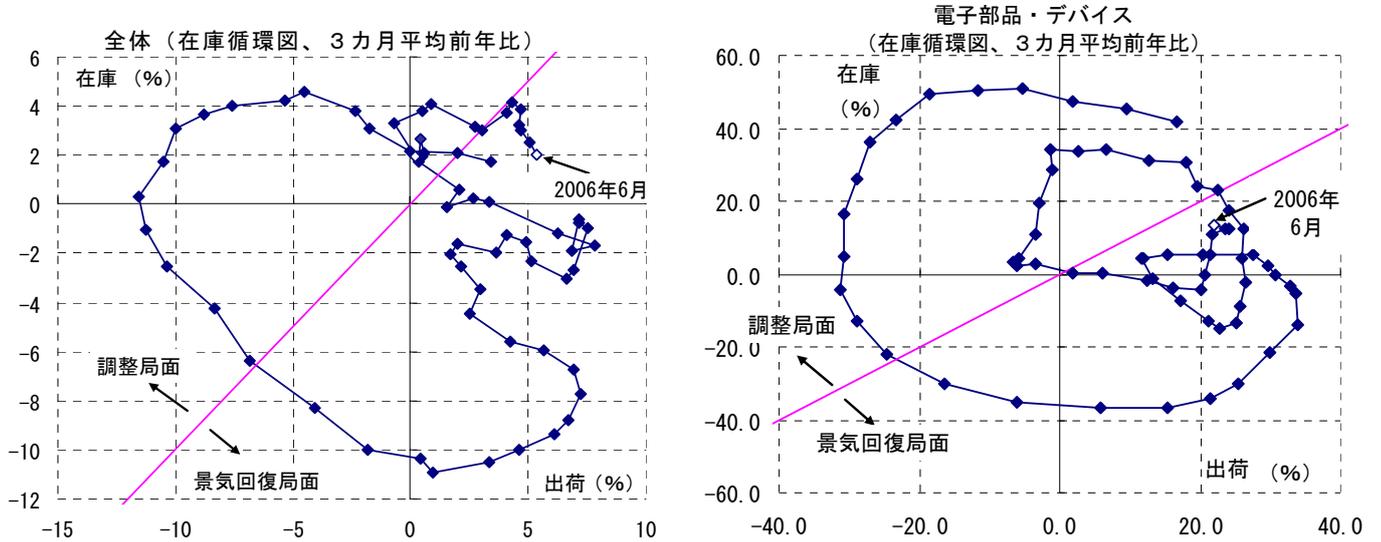
### ○7-9月期の生産は堅調に推移するものの、IT分野での生産調整や輸出の鈍化が懸念材料

在庫循環をみると金属工業生産全体では改善傾向となっている一方、電子部品・デバイス工業では調整局面入り近づいていることが示唆されている。IT分野で生産調整懸念が高まったことや、米国経済の減速を背景に輸出の増加ペースが早晚鈍化してくる公算が大きいことを勘案すれば、一定の生産の減速リスクがあることには留意が必要である。予測指数などから判断すれば、7-9月期の生産は堅調に推移すると考えられるが、先行き金属工業生産の増加テンポが徐々に減速してくる可能性は高いと考える。

もともと、基礎素材の在庫調整は終息しており、個人消費や設備投資などの回復を背景に消費財や資本財

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

の生産は堅調に推移すると考えられる。IT関連財での生産調整が生じたとしても、その他のセクターは生産の下支え要因となることが期待できる。また、海外経済が大きく減速することは見込みにくく、輸出の増加ペースの鈍化は軽微で済む可能性が高いことやIT分野の調整についてもアテネオリンピック後のような大幅な落ち込みは回避できる公算が大きい。ITでの調整及び輸出の下振れ懸念などから生産が加速度的に良くなっていく状況は見込み難いものの、内需や素材関連分野での下支えにより鉱工業生産は先行きも底堅く推移することが見込まれる。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。